

鑄造協に中国四国支部

関連メーカー生産維持へ連携

中四国地方の鑄造関連メーカーが22日、日本鑄造協会中国四国支部(広島市西区)を発足させ、設立総会を広島市南区のホテルで開

いた。ものづくりの海
外移転が進む中、新技
術の開発、人材育成な
産の維持を図る。



広島市南区であった支部の設立総会

総会には、中小の鑄物メーカーなど会員企業の役員たち約120人が参加。藤原慎二支部長は「中四国で連携し、時代の変化を乗り切るための中核組織になる」とあいさつ。協会の木村博彦会長は「21世紀は(業界にとって)厳しい状況だが、全体で手を組んで鑄造をPRしたい」と述べた。協会の地方支部は東海、北陸に続き3力所目。鑄物のほか木型や資材などの関連メーカー約100社で構成する。

国内の鑄物生産は、新興国での生産の拡大や、軽量なアルミや樹

脂部品への置き換えなどにより減少傾向にある。若手社員の勉強会や工場見学会などを開き、地場企業の競争力

(河野揚)